

氏名	兼宗 美幸	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	博士（看護学）甲第22号				
学歴	1986年千葉大学看護学部看護学科卒、2000年文教大学大学院人間科学研究科修士課程生涯学習学専攻終了、2020年順天堂大学大学院医療看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	1986年都立築地参院（当時）助産師、1989年埼玉県立衛生短期大学看護学科助手、1996年同講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教授、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、更年期と加齢のヘルスケア学会、日本女性医学学会、日本女性心身医学会、日本看護研究学会、日本看護教育学会				

【2019年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	キャリア後期女性看護職の更年期症状とワーク・エンゲイジメント、ヘルスプロモーション行動との関連	共同	あり	更年期と加齢のヘルスケア、18(1)、19-30	兼宗美幸	2019年6月
2	キャリア後期にある非管理職の女性看護職に対するヘルスプロモーション行動の促進が更年期症状とワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響	単著	あり	順天堂大学大学院医療看護学研究科博士論文、2020年	兼宗美幸	2020年3月
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	非管理職のキャリア後期女性看護職に対するワーク・エンゲイジメントとヘルスプロモーション行動の促進を目指す健康支援プログラムの検討	共同	更年期と加齢のヘルスケア学会、東京	○兼宗美幸、高橋真理	2019年9月	
2	仕事と不妊治療の両立における女性看護師のセルフケア	共同	母性衛生学会、千葉市	○小野仁美、鈴木幸子、兼宗美幸	2019年9月	
3	更年期女性の更年期症状に対する評価尺度の国内外における比較 SMIとGCSとの比較	共同	日本女性医学学会、福岡市	○永谷実穂、高橋真理、兼宗美幸、高島えり子、日置智華子、安井敏之	2019年10月	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	中山間地域における妊産婦の健康支援サービスの構築		研究分担者	2016.4～2020.3	

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学Ⅱ（女性と家族）	○	8	WebClassを活用した授業方法に変え、学生中間アンケートの感想や意見を踏まえて内容やレイアウトを修正した。
2	リプロダクティブヘルスと看護「性暴力と被害者支援」		1	前年度の学生の感想や意見を踏まえて教授方法（性暴力被害者支援映像の活用）を改善した。
3	母性看護学Ⅰ「女性の健康とDV」		1	前年度の学生の感想や意見を踏まえて内容を精査し、資料及び方法（具体的なDV被害者支援の説明）を改善した。
4	周産期のケア「助産倫理」「地域母子保健」		2	次年度の演習や実習へ継続するよう、資料と方法（学生の経験に近い倫理的課題、地域母子保健教材の視聴）を改善した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア「助産過程」「分娩介助技術」「第一期のケア」「リアルな分娩介助演習」他		22	グループダイナミクスを尊重した関わりと、自信を高めるポジティブなフィードバックでグループワークの活発化を促進した。
2	母性看護学Ⅲ（周産期）「看護過程」		2	学生の課題達成状況に合わせて、看護計画立案上の課題やその解決方法に気付くようフィードバックを行った。
3	リプロダクティブヘルスと看護「課題別グループ討議」		4	個別学習でテーマの探究を支援し、プレゼンテーションの助言を繰り返して完成度を高め、発表での議論を活性化した
4	周産期のケア「助産外来演習」「集団指導演習」		5	学生の課題達成状況に合わせて妊婦健診技術や助産計画立案など、課題と解決方法に気付くよう肯定的なフィードバックを行った。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2019.5～2019.7	実習目標の到達状況を個別に確認しながら達成感を高めるように肯定的なフィードバックを行った。
2	助産学実習Ⅰ		2019.5～2019.6	事前学習課題の到達状況を確認し、個別の課題を達成するようグループダイナミクスに配慮しながら助言を行った。
3	総合実習（母性看護学領域）		2019.7	個別性に基づく看護計画立案や実践を個々に指導した。特に、退院後の生活や心理・社会的支援等のカンファレンスを促した。
4	助産学実習Ⅱ		2019.8～2019.10	個別的な助産計画が適時立案でできるよう助言した。また分娩介助の体験を学習として意味付けるよう支援した
5	IPW実習		2019.10.	施設との協力体制を作りながら、学生の自主性と達成感を高めるようファシリテーションを行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2019.4～2019.12	主指導 4名	副指導 0名
2	修士論文	2019.4～2020.2	主指導（指導教員） 0名	副指導（指導補助教員） 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	学内科目担当（性と生殖）	2019.5～2019.6	WebClassを活用した授業形態に変更後2年目で、科目責任者である非常勤講師と連絡を密にとり、円滑に実施できた。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	専門職講座「臨床家のための看護研究セミナー」	看護学科教員研究グループ	ゼミナー形式での研究計画書作成から研究発表練習までに取り組む	2019.5～2019.12

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	認定特定非営利法人 こしがやともろう	理事	2017.7～2022.7
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	大学院保健委員（感染症対策部会・禁煙化部会）	2018.4～2020.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	保健センター員	2018.4～2020.3
3	全学的委員会及びセンター業務等	男女共同参画推進委員会 相談員（妊娠・育児関係）	2018.4～現在
4	学生支援	4年生担任	2016.4～2020.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			